

しんらん同人

NO, 518

7月号

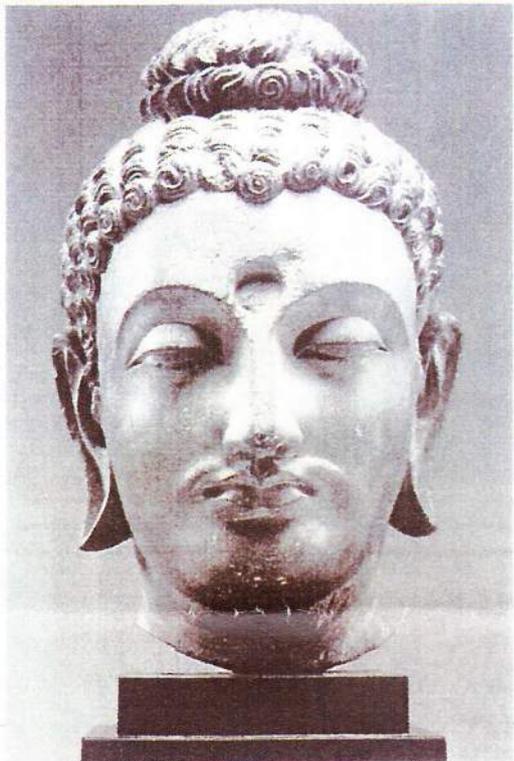
二〇一四年七月一日発行 郵便番号170052
発行所 東京都豊島区南長崎一の三の八 誓願寺
TEL 3 6990 7 6998 FAX 3 6990 6 9920
http://www.seiganji-tokyo.jp

死んだ人にお経はあげない

迷信というと、他の宗教や他の宗旨には迷信が多いと考えられますが、浄土真宗の門徒の中にも、迷信と気づかずに迷信的行為をしている人たちがいるのではありませんか。

お葬式のとときに、死んだ人にお経をあげたり、御法事のとときの読経も、死んだ人たちにあげるものと考えたり、朝の礼拝に今日一日無事でありませうと願ったり、少しでもよいことをすれば助けてもらえると考えたり、ありがたくなれば助かるように思ったり、等々。こまかく言うとう、いろいろな迷信があるように思われます。

これらのことは、殆どが迷信とは知らずに行つてい



Head of Buddha 仏頭

片岩、35cm、3-4世紀

ガンダーラ、パキスタン

東京国立博物館

ガンダーラ仏の顔は、面長で眼のほりが深く、鼻筋が通り、眉が長く弧を描いて伸び、口は小さめで、現実感を持ち、理知的な感じがする。仏像の中で、もっとも現実の人間に近い感じを与えるのではなからうか。

るようです。親鸞聖人の教をよく聞かせ

ていただいたなら、前述のようなあやまつた考えは起るはずがありません。門徒だといながら、真実の教を聞かないために、迷信に落ちていることに気がつかないのであります。

浄土真宗は、他力廻向の教であります。救われるということは、如来のお力ひとつで救われるのであつて、われわれの値打ちや、力ひとつも必要ないのであります。

生死の苦海ほとりなし
ひさしく沈めるわれらをば
弥陀弘誓の船のみぞ

のせてかならずわたしける

弥陀弘誓の船にのせていただいて生死の苦海をわたらせていただくのであります。

お葬式は、親しい人が亡くなった時に行なう。おわかれの式であります。何かおわかれをおしますおれないのは人情であります。が、死体に

読経したり、読経して死人を浮び上がらせるとでも考えたらそれは、間違いであります。

お経は仏さまの説かれたみ教であります。このお経をいただいて、亡くなられた人も、生きている私たちも、とどもに仏のお慈悲の中に生かされている事を感謝するのであります。お念仏をいただいた人なら、間違ひなく浄土に参らせていただいたのであります。うが、そうでない人は、どうなつたか、それは我々にはわかりません。

しかし、仏のお慈悲はきわまりがないと聞かされておりますから、仏のお力で、よいように計られてゆくのであ

七月十三日(日) 午前十時

お盆法要厳修

家族揃ってご参詣ください

りましょう。いづれにしても、私の力ではどうにもならない、生死の大問題を、仏のお力で解決させて頂くことを感謝するのであります。

通夜の晩に、白骨の御文章を拝読したら、

こんなお通夜は初めてだ。そう話してももうとありがたいという人がありました。

親しいものの死を思い、やがてわが身の上になる問題と人間に生れ出たいわれを静かに考えて、真実の法を味あわせて頂いてこそお通夜の意義があるのではありますまいか。

浄土真宗門徒の迷信をきれいに洗いきりたいたいものであります。



真宗の救い

佛教の究極の目的は「仏に成る」こ

とである。八万四千の法蔵（經典）も、その方法をあらゆる角度から説かれている。

真宗も目的は、「仏に成る」と、この一点を見落とすと、真宗が人生を生きぬく手段となり誤りを犯すことになる。

決して手段ではない。

さて真宗のすくいであるが、昔から現当二世にわたる救いとしてあらわされている。現は現実の世、今である。当は当世、死後の世界、勿論一つずつ独立しているわけではない。今救われているから死後の救いに間違いがなく、死後の救いが約束されているから、今の救いがある。

では死後の救いとはなんだろうか。それは間違いなく、お浄土に往生させていただくと同時に、仏に成らせていただき、滅度の悟りを開けることである。

親鸞聖人の教えの特徴は、信心を頂き、念仏申す身になったとき、現実の世で、すでに正定聚となり、全ての徳を包み込んだ六字の名号が私と一体となってくたさること。

正信偈は

成等覺證大涅槃
必至滅度願成就

今の救いと死後の救いが成就しているからと喜ばれている。

正定聚が現実の人生にどう関わってくるかを考えてみよう。

特に現代は、何事も利益、物益を中心に物事を考えていく傾向が強い。お金が儲かる、病気になる、美味い物が食べられる、と自己中心の欲望満足を尺度にしている。

一歩進んだ人たちは、物だけでは、満足できないことを知り、精神的なものの方、考え方が変わり、新しい人生が開けると思っている人が多い。

私の心の持ち方が変わっても、どうにも対処できないものもある。お念仏に遇うと心が変わるのではなく、正しいものの見方、考え方が出来るようになる。

今まで自己中心に全て自分の力で生きてきたと考えていたものが、ああ、そうではなかった、みんなのお陰で生かされていたことに気づかされる。

目の前のことばかりに執着していたものが三世を通しての自分に気づき、宇宙的いやそれ以上に広い視野で、自分を見ることができ。

「われもひかりのうちにあり」大きなみ手の中で安らかな生活が生まれる。

質疑応答

問 葬儀の時、火葬場でお骨を骨壺に入れるのに二人一組で箸をつかいますが、どういう意味があるのでしょうか。

答 私自身このことを疑問に思い、人に尋ねたり調べたりしているのですが、案外難しい問題のようです。これには色々な説があるからです。「箸渡し」つまり浄土への橋渡しという意味であるという説、焼骨はもろいので落とすことのないようにするためであ

るという説。故人を共に悲しむためという説。死霊がひとりの人にとりつくのを防ぐためという説。あるいは、人間というものは死ぬことさえも大勢の人々の手を煩わせなければ出来ない、という教えなのだという説（これなどは、私はとてもいい解釈だと思えますが）など様々で、定説というものは寡聞にして知りません。

重要なことは、日常生活で食物をはさみ合せて受け渡すことはかなり厳しく禁じられていることです。私自身も、親からそれを厳しく禁じられました。おそらく、これに理由付けは

いらんのではないのでしょうか。すなわち、死者儀礼の作法は日常に用いてはならないし、その逆も許されてはならないという無言の約束があるのでしょう。逆さ屏風とか左前などの習わし、あるいは訃報の黒枠などもまた同様で「死に直面する」ということの緊張が際限なく、日常の空間に流れだすということはどうしても避けなくてはならないという思いが、そうさせてきたといえるでしょう。

死に接する作業は、大いに緊張を要する事であり、それに対処する方と語りようになりました。日本策が講じられても不思議ではありま

せん。またお骨が日常の食物と同様に扱われるようでは、これまた具合が悪い事でもあります。はつきり断定はできませんがおそらくそのような理由が隠されているのだらうかと私自身は思います。なお念のため申し添えますが、浄土真宗などの宗門では、魔除けの刃物を置くとか、塩で清めるとか、逆さ屏風等々の風習をかかわらずしも必要なことではないと説いています。

釈 尚文 独り言

古賀尚之、六十八歳「人生たそがれ時」にしてようやく「聞法かたはれ時に逢う。」

(注) 人影が見えるか見えないかの薄暗い頃を「誰そ、彼は」「彼は、誰れ」と表現し、後に、夕刻を「たそがれ時。」早朝を「かたはれ時。」

はたれ時。」
語つて素晴らしいですね。

さて冒頭の言葉ですが、最近特に感ずる事を言葉にしました。人間としての活力は、目標や希望を持つことで生れ出るように思いますが、他人が与えてくれるものではないです。他人が与えてくれるものではないです。もう高齢者の仲間入りをしたんだ、後は余生を波風立てずに過ごしたいと思うのか、今からが聞法の始まりだと喜びわくわく出来るのかで、これから過ごす日々の充実度合いが異なってくるのではないのでしょうか。あと十年若かつたらと、ちゅうちよするのでは

はなく、十年後から見たら、今がその十年前です。出来ない事は何もありません。そう自分自身に言い聞かせながら、一歩前に進もうとしている今日この頃です。少しスランプから脱出したようです。今後の課題を探しています。歎異抄、四十八願などが浮かびます。ご助言が御座いましたらお知らせください。

浄土真宗本願寺派 大恩寺

お墓をお探しのかた
お墓でお悩みのかた
無量寿堂のご案内です。



- 二十万円 (管理費元、切不取)
- 永代納骨
- 無量寿堂 (おぼせん)

お盆法要を行う意義

今生きていることの源、私の生命の流れきたる源を思うと、父を想い、母を想う心は、そのまま生きていくことへの喜びとなります。

お盆のことを明治時代には歎喜会といっていたそうです。このような喜びを味わうという意味で歎喜会といったのでしよう。

最近はこの「いのちの大切さ」ということが、見失われつつあります。それもいのちの大切さは、利用価値があるという意味で大切といい、いのちそれ自体無限の意味を内包した尊厳なものということが忘れられています。

癌となり病床に伏して、後にくばくかのいのちと見られたら、治療さえ施すこともなく、見舞う人もなく、遠くの老人病院に、姥捨山のように追いやってしまう現実があります。

お念仏の世界では、一切衆生の一人ひとりが掛け替えの無い大切な仏子仏性とみて下さり、一人ひとりが、その人以外に生きようのない「いのち」を生きるのであり、誰も代わりようのない死を迎えていくのです。だからこそ、今いのちをいただいで生かされていることが尊いのであり、そのいのちの根源にふれる大切な行事がお盆ではないでしょうか。

編集後記

◎毎日30度以上、身体もだるく、つい昼寝になってしまおう。リキ(犬)もナナ(猫)も、涼しいところを選んでゴロリ。

◎同人もこつこつ作っていきましょう。記事の中で、何か一言でもお役に立つことがあれば、私は満足です。

◎お盆 掃蕪したみんなまで語り合いました。

個人の納骨仏壇

貴方の納骨仏壇を用意しました。先祖代々の墓地等を見にくれるか解らない時代です。核家族となり、親子の関係も段々変わりつつあります。安心して生きてゆくために準備が必要です。お寺の方で永代に供養できる納骨壇です。一基三十万円です。お気軽にご相談ください。

七月御法座案内

十三日(日) 午前十時 お盆法要

正午 医療相談

講師 佐藤公彦師

廿日(日) 午前十時 なかよしくらぶ

廿二日(火) 十一時 歎異抄の会

廿七日(日) 午前十時 聖典講座

